

間もなく、組太刀の稽古を覚えまし
た。技の習得と同時に相気の状態を
継続する必要から、安定した気を鍛
練することができ、試合をする上で
も大変役に立ちました。

また、組太刀の稽古は、「かつての
修羅場」を経験するかのような状況
を作り出すことができ、武道が究極
の目的を「非常心の養成」としてい
たことをまざまざと実感させられた
こともありました。先達が絶対的な
価値観による「兵法の勝ち」を前提
に技を組み立て、削り上げられてき
た組太刀には、その理念を含め、大
きな畏敬の念を感じてしまいます。

我が国の長い歴史と伝統に培われ
た剣道は、近代スポーツとしての要
素を身につけ、今日、現代剣道とし
て発展を遂げています。剣道で使う
稽古ということばには、古の技を正
しく覚え伝える意味が含まれます
が、現代剣道には、古来の多彩な剣
道の技の存在を消し去っても、試合
に使い易い技を充実させれば成り立
つ側面もあると思います。しかし、
発達段階に応じた指導内容に違いは
あっても、指導者自身もつと数多
くの技や「遣い方」を習得できるよ
うな機会をつくる必要があると思
います。

さて、表題の「残心」は、大学時
代の恩師が自分の手拭いにしたため

ていた言葉です。この原稿を書くに
当たって、自分が先生の当時の年齢
になっていることに気付いて、あえ
て表題とさせていたいただいた次第で
す。

行政の仕事に携わり、ここ数年は
稽古時間がめっきりと減っています
が、なんとか機会を見つけて稽古に
励んでいきたいと思えます。どうか、
どこかで案山子のように打たれてい
る姿を見かけた方は、激励の意味を
込めて一声かけてください。

(スポーツ健康課指導主事)

心配をよそに

阿部 順子



「植物は、デンプンや酸素を作って
がんばっているなんてすごいです
ね」と光合成の授業中にいきなり感
想を述べる生徒。「部活が終つてから

摘んできました」と十数種類の野草
を手にする女子生徒たち。例年より
積極的だと思つていると、消極的だ
った二年の男子生徒が「へびをとつ
てきたよ」とペットボトルにシマヘ
ビを入れて持つてきた。ハチュウ類
の学習中である。いつもより生徒た
ちの目が輝いているような気がす
る。今までより実物の提示が多くな
つてきているからでもあろうか。

いろいろ考えをめぐらすと、思い
当たるふしがある。生徒の目の輝き
は今年度から始まった教科教室型校
舎での学習がきっかけになつてい
ようである。

二年前に、まわりが透明な明るい
体育館が作られ、昨年度末、木のぬ
くもりのある教科教室型の校舎が完
成した。チャイム着席ができないの
ではないか、生徒指導面での不安は
ないかなど心配もされたが、今のと
ころ大きな問題もなく、生徒たちは
実に生き生きと活動している。

学級という枠が取り払われたため
か、授業も多様化している。数学科
では、生徒がお互いに教え合い、先
生は時折回つてきて助言を与えたり
する。黒板は難易度によって三面が
用意され、それぞれが、一生懸命問
題を解いている。英語科では旅行セ
ンターのように各国のパンフレット
などが掲示され、元気な声が響きわ

たる。広い多目的ホールの一角には
八畳程度の畳の間があり、自由な格
好で学習会を開いている。その他の
教科でも課題解決学習などに取り組
み、生徒が互いに調べたことを発表
し合っている姿もよく見受ける。

なお、体育館の透明なガラスも割
れることなく、生徒たちは青春のい
い汗をかき、それぞれの成果を上げ
ている。

このようないろいろな姿を目にし
てから、生徒というものはうまく環
境に順応し、輝いて生きていけるす
ばらしい存在だと強く思うようにな
つた。それを証明するかのよう
に、大沼郡中体連大会の最終日、二対七
で敗色濃厚と思われた野球の試合
が、最終回に九対七と土壇場の逆転
劇で見事勝利を手にしたという知ら
せが舞い込んできた。

年度当初の我々の思いは結局取り
越し苦労に過ぎず、いろいろな心配
をよそに、生徒たちは不可能と思わ
れることでも可能にする力を秘めて
いることを知ることができた。生徒
たちがより大きく見える今日このご
ろである。

(会津高田町立第一中学校教諭)

